

イリュージは花弁に灰色カビ病（通称 花ボト）が出やすい品種です。

株は弱くありません。花弁にのみ、出やすいのです。

薄いピンクの花色のため出てしまった花ボトが目立つということもあるかと思います。（濃い花色の品種だと花ボトが出ても見えなかったり、気が付かなかったりします。）

花弁に出るブツブツ模様が花ボトです。

これにより枯死したり、弱くなったりすることはありませんが、見た目がよくないかと思います。

花ボトは、気温 15~20°C、湿度が高く日照量が少ない環境で、花弁が濡れた状態が続くと数時間で発症します。また葉が濡れていて株周辺の湿度が長時間高い状態も発症を助長します。

花弁が広がって咲くことで、湿度を受け止めやすくなっていることも原因として考えられます。

一度出てしまうと花弁からブツブツが消えることはありません。

発症を防ぐための薬剤散布は効果が期待できなく、多湿にしないことが一番の対策です。

- ・風通しのよい場所に置いてください。
- ・まだ気温が高い時期などは、ひさしなど屋根がある場所に置き、雨が花にあたらないようにしてください。
- ・水やりの際は、水が花弁にかからないよう、ひと株ひと株、株元に丁寧にあげてやってください。
- ・曇りの日や雨の日の水やりはなるべく避けてください。
- ・夕方の水やりも避け、出来れば午前中の日当たりのよい時間帯に行ってください。

冬になり温度、湿度がさがって来れば花ボトが出る心配はなくなり、雨が花にあたっても大丈夫です。また、温度が上がってくる春先も、どういうわけか出にくいことが分かっています。



花ボト（花弁に出る灰色カビ病）